

3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる。なお、ヒアリングによれば、足下の感染者数増加による下振れ懸念が一部の業種で強まっている。

- ・ 鉱工業生産は下げ止まりつつある。
- ・ 個人消費は持ち直している。なお、ヒアリングによれば、足下における感染者数増加による下振れ懸念が一部の業種で強まっている。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更)。

前回からの主要変更点

	前回 (令和2年9月)	今回 (令和2年12月)	
景況判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる。なお、ヒアリングによれば、足下の感染者数増加による下振れ懸念が一部の業種で強まっている	→
鉱工業生産	一部に持ち直しの動きがみられる	下げ止まりつつある	↓
個人消費	このところ持ち直している	持ち直している。なお、ヒアリングによれば、足下における感染者数増加による下振れ懸念が一部の業種で強まっている	→
雇用情勢	感染症の影響により、弱い動きとなっている	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	↑

1. 鉱工業生産等の動向

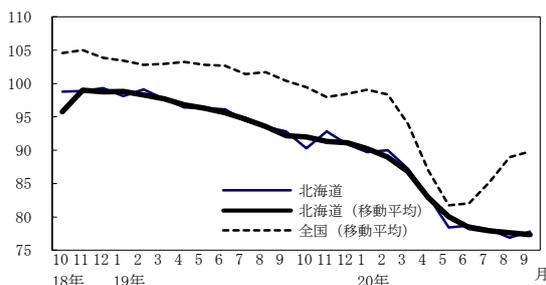
(1) 第一次産業は生乳生産は前年を上回り、主な水産物の生産額は前年を下回っている。

7-9月期には、生乳生産は総量では1,045,152t と前年比2.0%増となった。主な水産物の生産額(主要9港)は、さんま等が減少したため、前年比30.8%減となった。

(2) 鉱工業生産は下げ止まりつつある。

7-9月期の鉱工業生産は、鉄鋼は鋼半製品等が減少したこと、食料品は冷凍水産物等が減少したこと等により、前期比3.1%減となった。月別では、7月に前月比0.8%減、8月に同1.5%減の後、9月は同1.2%増となった。

鉱工業生産指数



(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。北海道の最新月は速報値。
2. 全国及び北海道の太線は中心3か月移動平均、直近月は2か月平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4-6 月期	7-9 月期	7月	8月	9月
食料品	25.9	▲3.5	▲1.8	2.8	▲0.7	▲4.9
パルプ・紙	13.1	▲10.9	▲4.3	▲6.6	▲3.1	17.7
電気機械	9.1	▲16.8	7.5	11.8	▲7.7	20.7
鉄鋼	7.9	▲24.1	▲42.7	▲36.0	▲12.5	▲0.8
化学・石油石炭製品	7.6	▲10.0	▲23.1	▲22.5	▲9.5	7.2
鉱工業	100.0	▲10.0	▲3.1	▲0.8	▲1.5	1.2

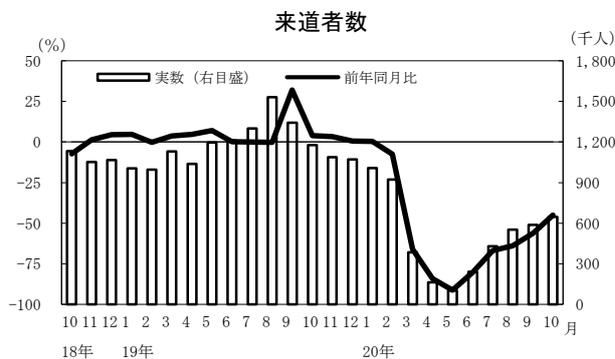
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 7-9月期、9月は速報値。

¹主な水産物は、するめいか、さんま、すけとうだら、たこ類、ほっけを対象魚種とする。

(1) 北海道

(3) 観光は一部に持ち直しの動きがみられる。なお、ヒアリングによれば、足下における感染者数増加による下振れが懸念されている。

7－9月期の来道者数は、航空機の利用者減などがあり、前年同期比62.4%減となった。月別では、7月に前年同月比66.9%減、8月に同63.9%減の後、9月は同56.3%減となった。



(備考) 北海道観光振興機構調べ。

2. 個人消費の動向

個人消費は持ち直している。なお、ヒアリングによれば、足下における感染者数増加による下振れ懸念が一部の業種で強まっている。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7－9月期は前期比0.5%増となった。

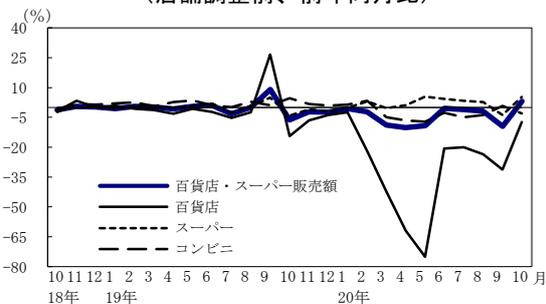
(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、4－6月期は前年同期比6.6%減、7－9月期は同4.1%減となり、減少幅が縮小している。

百貨店は、4－6月期は同52.1%減、7－9月期は同25.1%減となった。

スーパーは、4－6月期は同3.6%増、7－9月期は同0.8%増となった。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



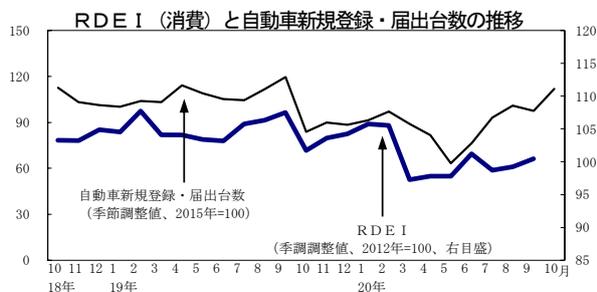
	2020年7-9月	2020年7月	8月	9月	10月
RDEI (消費*1)	0.5	▲2.5	0.6	1.2	—
百貨店・スーパー(*2)	▲4.1	▲1.1	▲1.8	▲9.5	3.1
百貨店(*2)	▲25.1	▲20.0	▲23.5	▲31.2	▲7.4
スーパー(*2)	0.8	3.4	2.7	▲3.8	5.3
コンビニ(*2)	▲2.7	▲4.9	▲3.8	0.8	▲3.1
乗用車(*3)	▲13.5	▲12.3	▲9.9	▲17.0	33.2
(季節調整値) (*3)	31.7	22.0	8.2	▲3.4	14.8

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

2020年10月は速報値。

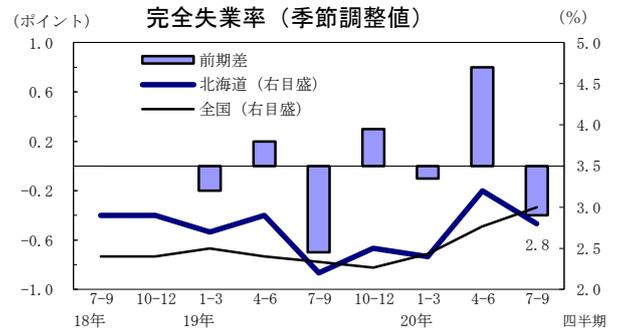
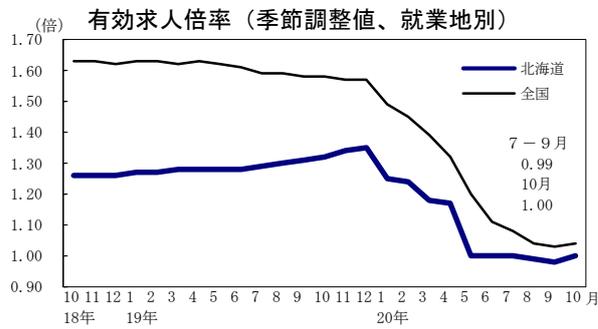
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を下回っている。



(13) 景気ウォッチャー調査（令和2年10月調査）景気判断理由の概要

1. 北海道

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連	○	・地元客に加えて、観光客も増えており、それに伴って収益が改善している（高級レストラン）。
		□	・直近3か月、ほぼ同じような来客数、売上で推移しており、変化が余りない。ただ、今年は完全予約制で人数制限をしたうえでの営業となっているため、前年と比較すると約10%程度の売上減となっている（美容室）。
		▲	・分譲マンションのモデルルームへの来場者の多くが購入に慎重であるなど、様子見の客が多い（住宅販売会社）。
	企業 動向 関連	□	・3か月前と比べて変化がみられず、売上の悪い状態が続いている（食料品製造業）。
		○	・新型コロナウイルスの影響で営業行動が落ち込んでいるものの、客の購買行動がみられ始めていることから、受注量は増加している（通信業）。
		▲	・不動産の売買、建物の新增改築工事が減少している（司法書士）。
雇用 関連	□	・新型コロナウイルスの感染者が地方でもじわじわと増えていること、報道などで繁華街の状況が伝えられていることから、飲食店への客足が伸び悩んでいる。求人件数の増加にブレーキが掛かっている（求人情報誌制作会社）。	
	○	・全体的には上向き傾向にあるとみられるが、業種間でのばらつきが大きく、上向きになっていないところもみられる。全体的には景気はやや良くなっている（職業安定所）。	
その他の特徴 コメント			○：新型コロナウイルスの影響はいまだにみられるものの、Go Toキャンペーンの実施とともに売上が回復傾向にある（コンビニ）。 ○：Go To Travelキャンペーンにおける地域共通クーポンの取扱が10月から始まったことが後押しとなり、客の動きが出てきた（旅行代理店）。
分野		判断	判断の理由
先行き	家計 動向 関連	□	・今後も引き続き低調に推移する。Go To Travelキャンペーンにより国内客が旅行する動きは出てきたが、前年実績を大きく下回る状況は変わっておらず、外国人観光客が戻るまでは厳しい状況が続く。それまでの間、国による継続的かつ効果的な経済施策が望まれる（観光名所）。
		○	・今年のクリスマス、正月は家庭内で過ごす機会が増えると思われるため、これからケーキやおせちなどの消費が活発になることが見込まれる（スーパー）。
	企業 動向 関連	▲	・北海道において新型コロナウイルスの感染者が増加傾向にあることから、客の設備投資意欲が落ちてきている雰囲気がある（その他サービス業 [建設機械リース]）。
		□	・社会活動が動き出した影響により、新型コロナウイルスの感染拡大リスクが増大している。一本道で景気が回復し続けるとは考えにくく、当面は様子見の状態が継続することになる（家具製造業）。
	雇用 関連	□	・企業の景況感は大学生の新卒採用状況と直結している。企業の採用担当者と接する学生たちの様子から、今後の景気が上向きになることは期待できない（学校 [大学]）。
その他の特徴 コメント			○：プレミアム付商品券の効果が期待できるため、今後の景気はやや良くなる（家電量販店）。 ▲：Go Toキャンペーンなどの政策効果に加えて、新型コロナウイルスへの慣れが見込める一方で、足元での新型コロナウイルスの感染拡大、悪化基調にある雇用環境及び所得環境、業況低迷により悪化が見込まれる企業の資金繰りなどが道内景気を下押しすることが懸念される。これらのことから、道内景気は3か月前と比べてやや悪化する（金融業）。

(D I) 現状・先行き判断D I（北海道）の推移（季節調整値）

